

C—46 北海道における服地の汚染と変退色
に関する研究(VIII)
—自然暴露による服地の変退色—

北海道教育大 伊藤 花子

1. 本研究は、北海道における服地の汚染、変退色などに関する実態を把握するために始め、すでに多くの実験を行ってきた。

このたびは有彩色の服地を直射日光に暴露した場合の変退色を、月別に観察する意図のもとに着手し、約5ヵ月間にわたる冬期間と1ヵ月程度の盛夏期間である自然

条件のもとで、同じ種類の服地がどう変化するか Photo-Metric に観察、今回は東北北海道支部会における発表に引きつづき、6,7,8 分である。

2. ①試料は平織りウール地色変り 9 種類、こげ茶、黒、紺、緑、黄、橙、うす茶、水色、うす紫を使用した。

②方法は 50 cm×70 cm 厚さ 5 cm の木箱に側面 2 カ所ずつ換気口を設け、その中に各試料を置き、参考上 J.I.S ブルースケールも使用した。箱の上を透明ビニールシートで被い、空気のきれいな郊外で日光に直射するよう工夫して暴露した。なお晴天時を選び午前 10 時～午後 3 時まで観察した。

③東京電色 KK 万能光度計により測色、Y, λ d Pe にもとづいて比較した。

3. 最近は染色が堅ろうになっているが、直射日光に 35 時間程度暴露すると、実験したすべての色は変退色しており、とくに緑、水色は目立っている。濃色は比較的影響が少い。また照度数の増加とともに変化が大きい。